別紙1

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和7年1月16日

協議会名： **鹿部町地域公共交通活性化協議会**

評価対象事業名： 令和6年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
函館バス株式会社	運行系統名：鹿部駅線 運行区間：鹿部出張所～宮浜～鹿部駅前 運行回数：1,910回 運賃：702,600円	事業者から意見聴取し、鹿部駅利用者の待ち時間を短くする時刻変更を行い、駅利用者の利便性向上を図った。 高齢者が集うシルバーカレッジで事業の説明を行った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	目標とした日利用者数34人／日に対し、23.7人／日と達成できなかった。	運転手不足に伴う運行内容の見直しをしながら、運行サービスを維持するため、利用者の意見と事業者の意見をすり合わせた運行計画の見直しを実施する。
鹿部町	運行系統名：鹿部リゾート・出来澗地区線 運行区間：鹿部駅～ロイヤルシティ鹿部リゾート内、出来澗地区内～鹿部駅 運行回数：160回 運賃：37,600円	高齢者が集うシルバーカレッジで事業の説明を行った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	目標とした日利用者数3人／日に対し、2.1人／日と達成できなかった。	利用者の意見と関係事業者の意見をすり合わせた運行計画の見直しを実施する。
鹿部町	運行系統名：大岩・鹿部地区線 運行区間：鹿部町役場～鹿部町字大岩、鹿部町字鹿部（3区A・B町内会）～鹿部町役場 運行回数：39回 運賃：3,900円	高齢者が集うシルバーカレッジで事業の説明を行った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	目標とした日利用者数1人／日に対し、0.3人／日と達成できた。	利用者の意見と関係事業者の意見をすり合わせた運行計画の見直しを実施する。

別紙1－2

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月16日

協議会名：	鹿部町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	鹿部町は、北海道南部の渡島半島東部に位置し、駒ヶ岳山麓の一角に広がる噴火湾に面した1年を通じて温暖な町で、総面積は110.63㎢、人口は令和6年12月現在で3,525人となっている。 近年では、町内におけるバス利用の低迷や少子高齢化、人口減少の進行等、状況は変化しているほか、令和3年度には鹿部町役場が移転し、町民の移動状況にも影響が出ている。これらの状況に対応し、町民をはじめとする町内公共交通利用者のよりよい交通サービスの提供を行うことを目的に、令和3年5月から「鹿部駅線」を再編し、利用者の意見を取り入れながら、運行内容の見直しを実施している。また、令和4年5月から、路線バスが運行しない又はバス停留所から遠方の交通空白地域の移動手段として、デマンドバスの運行を開始している。令和6年3月には、町内公共交通利用者への交通サービスを持続的に提供することを目的に「鹿部町地域公共交通計画」を策定した。「鹿部駅線」及び「デマンドバス」はJRに接続する他、町内の生活移動の手段となり、地域公共交通確保維持事業により将来に渡り安定して確保・維持することが必要である。

鹿部町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

町民をはじめとする町内公共交通利用者のよりよい交通サービスの提供を行うことを目的に、令和3年5月から「鹿部駅線」を再編し、利用者の意見を取り入れながら、運行内容の見直しを実施している。また、令和4年5月から、路線バスが運行しない又はバス停留所から遠方の交通空白地域の移動手段として、デマンドバスの運行を開始している。令和6年3月には、町内公共交通利用者への交通サービスを持続的に提供することを目的に「鹿部町地域公共交通計画」を策定した。「鹿部駅線」及び「デマンドバス」はJRに接続する他、町内の生活移動の手段となり、地域公共交通確保維持事業により将来に渡り安定して確保・維持することが必要である。

生活交通確保維持改善計画の目標

鹿部駅線の日利用者数を1日平均34人以上とする。デマンドバス鹿部リゾート・出来澗地区線の日利用者数を3人とする。デマンドバス大岩・鹿部地区線の日利用者数を1人とする。

地域公共交通の現況

・JR函館本線（鹿部駅）
・函館バス（株）（町内4路線）
・デマンドバス（町内2路線）　・タクシー（1社）

協議会開催状況

・令和5年11月28日（第2回）
　地域公共交通計画（案）について、デマンドバス運行内容の変更に係る地域内フィーダー系統確保維持計画変更申請について
・令和6年1月17日（第3回）
地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について
・令和6年2月15日（第4回）
　地域公共交通計画（案）について、鹿部駅線(しかバス)の運行内容変更案及び地域内フィーダー系統確保維持計画の変更について、デマンドバスの運行内容変更案及び地域内フィーダー系統確保維持計画の変更について
・令和6年3月29日（第5回）
　地域公共交通計画（案）について
・令和6年6月20日（第1回）
　地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について
・令和7年1月16日（第2回）
　地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

令和６年度事業概要

・路線バス運行系統名：鹿部駅線、運行区間：鹿部出張所～宮浜～鹿部駅前、運行回数：1,910回、運賃：702,600円
・デマンドバス運行系統名：鹿部リゾート・出来澗地区線、運行区間：鹿部駅～ロイヤルシティ～鹿部駅、運行回数：160回、運賃：37,600円
・デマンドバス運行系統名：大岩・鹿部地区線、運行区間：鹿部町役場～鹿部町大岩～鹿部町役場、運行回数：39回、運賃：3,900円

令和６年度事業の実施状況

１）プロセス、創意工夫（路線バス）

「プロセス」
・令和元年から町直営コミュニティバスの実証運行を実施
・地域公共交通利用者会議及び地域公共交通活性化協議会で協議をし、令和3年5月に路線バスを再編、バスマップを作成、全戸配布した
・路線バス用小型ノンステップバス購入
・利用者会議や関係者から意見聴取し、ニーズに即した運行計画の見直しを実施している

「創意工夫」
・地域公共交通確保維持改善事業費補助金及び公有民営方式車両購入費国庫補助金の活用
・町直営コミュニティバスの実証運行及び地域公共交通利用者会議及び地域公共交通活性化協議会の意見、各種アンケートの結果を参考に路線バスを再編
・路線バスの再編について、通学や町民ニーズ（各施設への立ち寄り）に即した運行ルート、週3日交通空白時間帯であった日中の便を追加、コミュニティ化したルートを運行可能な小型バスの購入、運賃の再設定を実施。
・バス車内モニターへの町PR動画投影、新型コロナウイルス対応の光触媒による車内コーティング、車内への無料Wi-Fi搭載・地域公共交通利用者会議や利用者、バス事業者の意見を参考に、ルートや時刻を変更
・子どもたちによるクリスマスの車内装飾の協力により、身近に感じてもらう取組みを実施
・高齢者の事業にあわせて、説明会を実施
・75歳以上の方等に対する地域交通クーポン交付事業を実施

２）運行系統（路線バス）

令和６年度事業の実施状況

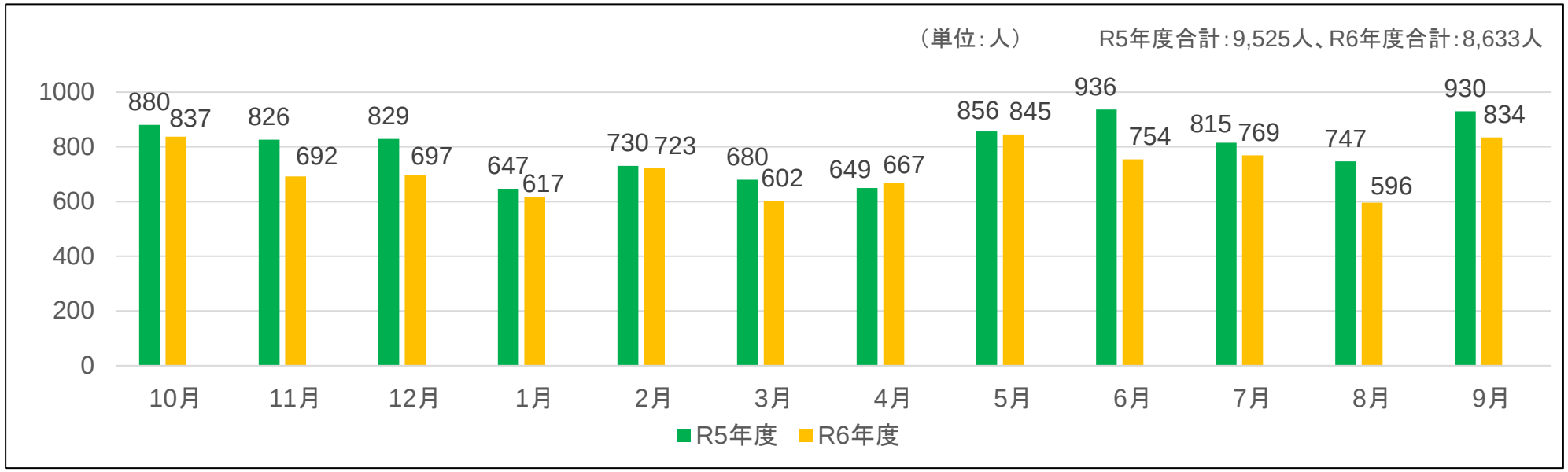
１）プロセス、創意工夫（デマンドバス）

「プロセス」
・令和3年10月からデマンドバス実証運行を実施
・地域公共交通利用者会議及び地域公共交通活性化協議会で協議をし、令和4年5月から本格運行を実施
・デマンドバス用10人乗り車両購入

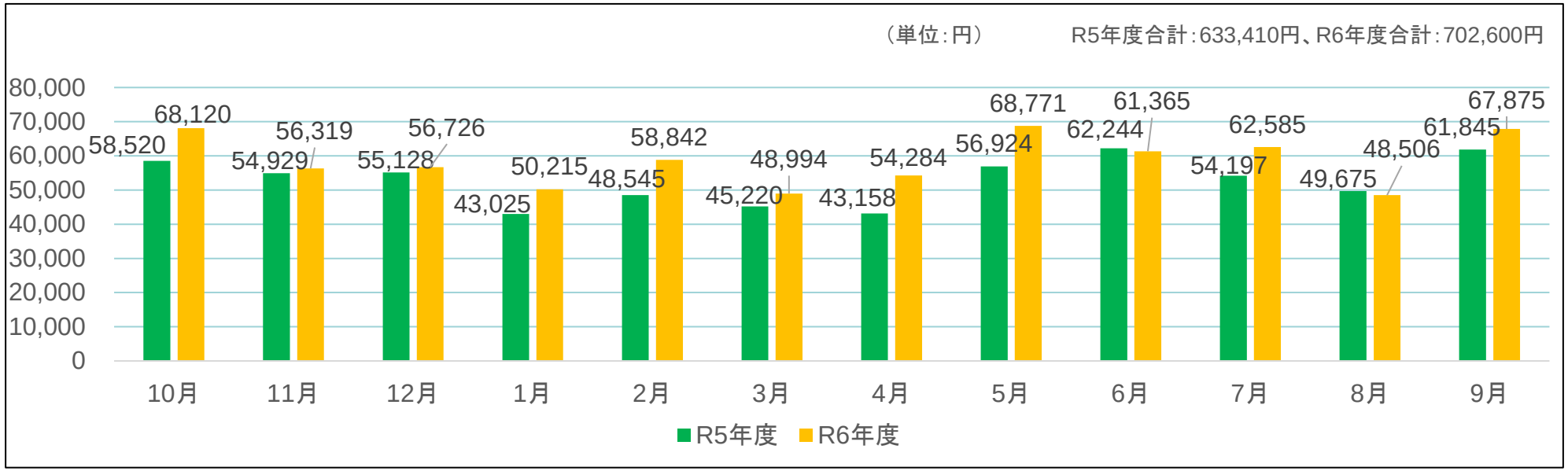
「創意工夫」
・地域公共交通確保維持改善事業費補助金の活用
・路線バスの運行しない又は停留所から遠い交通空白地域の移動手段として、自宅から路線バス乗継ぎ場所まで運行
・地域公共交通利用者会議やデマンド説明会での意見を参考に自宅から目的の停留所までを運行する直行便を追加
・高齢者の事業にあわせて、説明会を実施
・利用登録者に対し、利用例を作成し送付
・75歳以上の方等に対する地域交通クーポン交付事業を実施

２）運行系統（デマンドバス）

３）利用実績（路線バス）

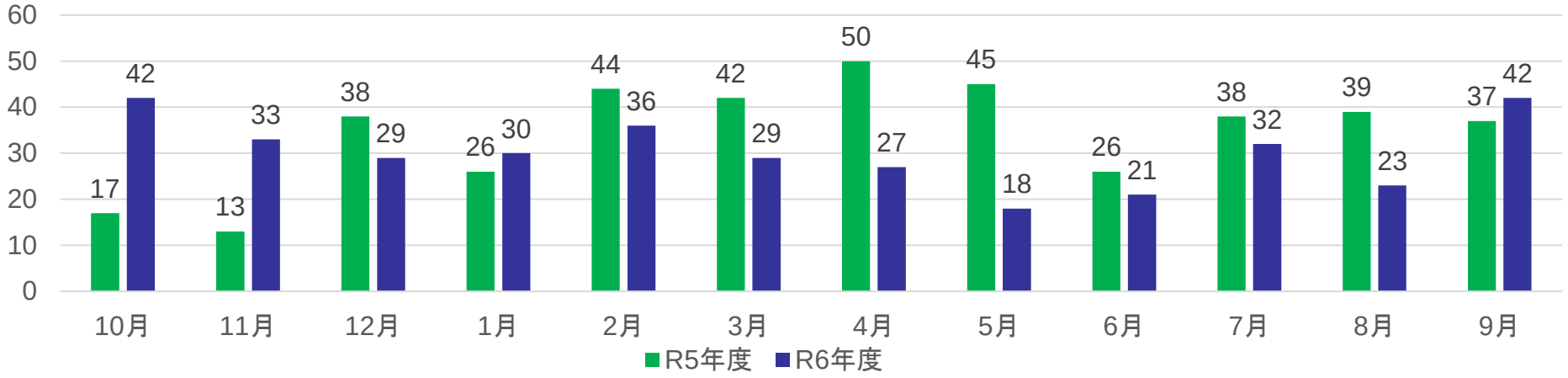


４）収入実績（路線バス）



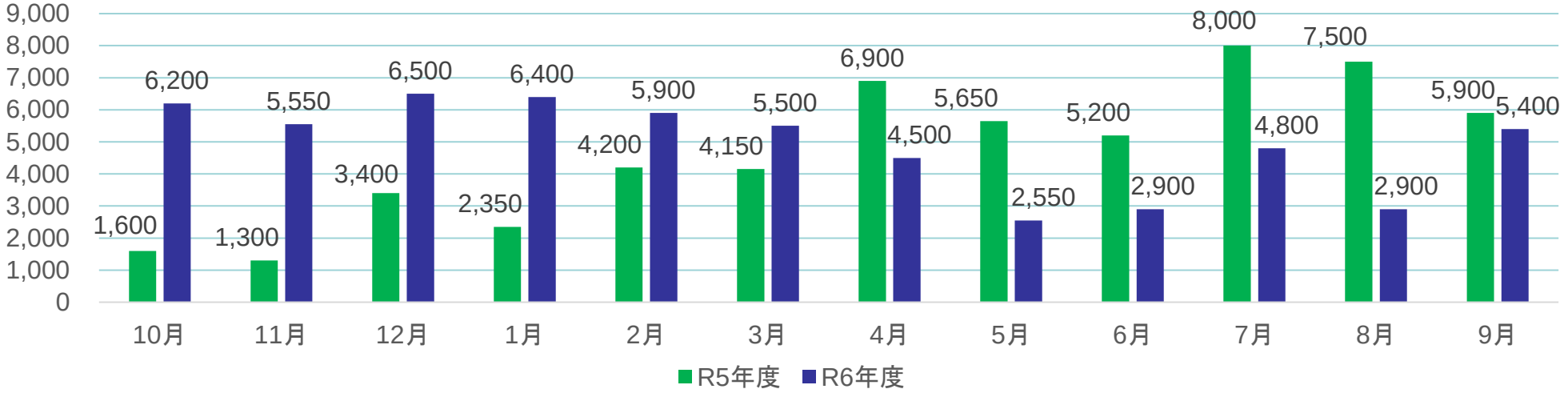
３）利用実績（デマンドバス全体）

（単位：人）　　R5年度合計415人、R6年度合計：362人



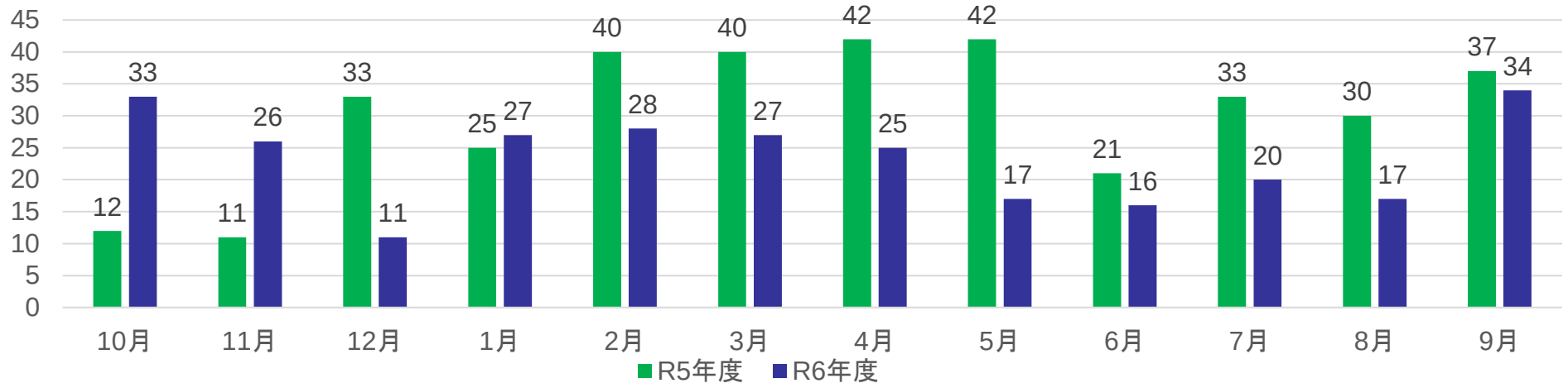
４）収入実績（デマンドバス全体）

（単位：円）　　R5年度合計56,150円、R6年度合計：59,100円



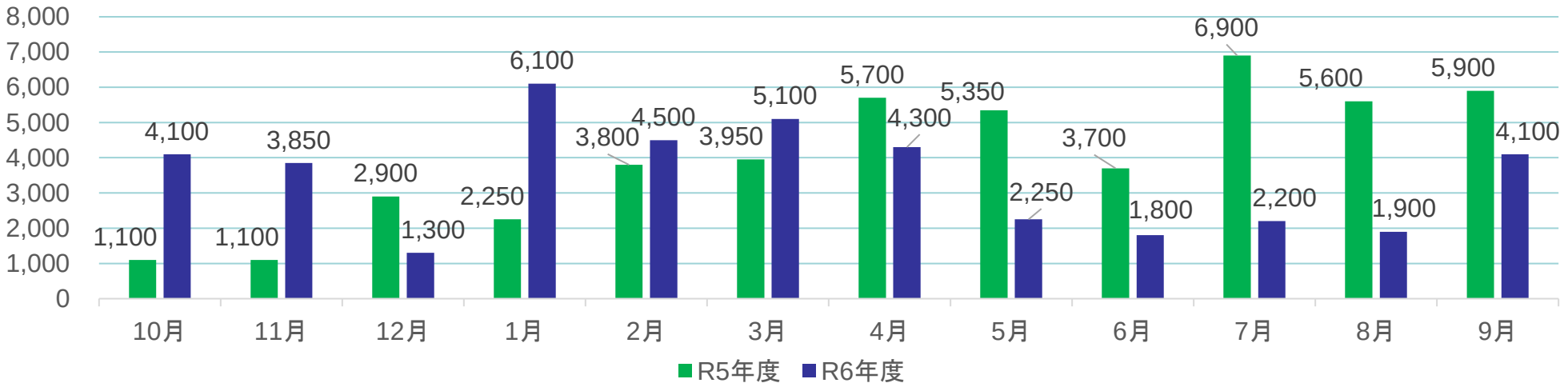
３）利用実績（デマンドバス補助対象路線）

（単位：人）　　R5年度合計：366人、R6年度合計：281人



４）収入実績（デマンドバス補助対象路線）

（単位：円）　　R5年度合計：48,250円、R6年度合計：41,500円



5）事業実施の適切性

・地域公共交通利用者会議、利用者や運行事業者の意見を参考に路線バスの運行内容を随時変更している。
・健診での路線バス利用の案内や、新型コロナウイルス予防接種時におけるバス利用助成を福祉部署で実施した。
・75歳以上の高齢者等に地域交通クーポン交付事業を福祉部署で実施した。
・交通空白地の移動手段として実施したデマンドバスの運行について、地域公共交通利用者会議やデマンド説明会での意見を参考に自宅から目的の停留所までを運行する直行便を追加した。
・地域公共交通説明会や出前講座を実施した。
・個別相談者や利用登録申請者に対し路線バス及びデマンドバスの利用例を作成し案内した。

6）目標・効果達成状況

・通勤及び通学時間帯の利用者が減ったこと等が影響し、目標とした日利用者数34人/日に対し、23.7人と達成できなかった。
・デマンドバスについて、制度の周知が図られなかったことが影響し、大岩・鹿部地区線の目標とした日利用者数1人/日に対し0.3人/日、鹿部リゾート・出来澗地区線については、目標とした日利用者数3人/日に対し、2.1人/日と目標を達成できなかった。

7）事業の今後の改善点

・公共交通利用者会議等で意見聴取し、利用者のニーズにあわせた時刻表の見直しを実施する。
・引き続き出前講座の実施や、路線バスやデマンドバスを利用した移動例を周知し、利用者拡大を図る。
・路線バス及びデマンドバスの利用者が少ない便について、変更や減便を検討する。
・バス運転手不足に対応した運行内容に変更し、交通サービスの維持を図る。

8）地方運輸局等における二次評価結果（案）

運輸局記載欄